

311MN 若者PJ「メディアコラボ」企画背景

コンセプト

災害からあらゆる事実を伝える意義を共有し、考える。

メディアとともに被災地取材・報道をアップデートする。

企画の背景

東日本大震災以後、被災地にとって「マスメディア」との距離は縮まった。

マスメディアが被災地に与える影響は大きく、取材される被災者は、時には話すことで心が癒され、震災に向き合い、活力になった。その反面、心ない取材や配慮を欠いた言葉で傷つき、適切な編集をされていない報道によって、被災者同士、地域内部での誤解や軋轢を生んできたことも事実である。

一方で、報道の現場の記者も取材方法に悩み、日常とかけ離れた被災地の現状を目にし、被災者の言葉を聞き、時に傷心し、苦悩している。

被災地にとっても、情報を発信するマスメディアにとっても、共通する課題は多く、両者の誤解を解くこともまた、被災地に残された課題である。

記者の多くは数年で転勤することから、被災者と積み上げた信頼関係や情報を次へ引き継がなければいけない。その引き継ぎは成功することもあるが、失敗することもある。

これは一見、個別の、小さな問題のようにも思われるが、災害大国日本において、看過できない大きな問題である。地震、津波に限らず、様々な自然災害が頻発する我が国において、震災の事実・教訓が効果的に伝わり、多くの命が守られるためには、確実に次の担当者、ひいては次の世代に、情報や信頼関係を引き継いでいくことが望まれるからである。

震災によって傷つく人が一人でも減り、心にいち早く安らぎが生まれるように。

災害における事実・教訓を伝えるという重要な役割を担うマスメディアと語り部が共に考え、協力しあうことで、「震災伝承」の分野から、未来の日本がより良くなる方法を探り、人材を育てていきたい。また、次の世代への伝承方法や情報を受け取る側のメディアリテラシーの向上にも寄与したい。

そうした思いから、この度の企画を実施することといたしました。